

門真市中学生議会

(記録誌)



平成 30 年 8 月 25 日

門 真 市

門真市教育委員会

目 次

はじめに

門真市中学生議会とは・・・・・・・・・・・・・・・・	2
門真市中学生議会議員名簿・・・・・・・・・・・・	3

開 会

市長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・	5
市議会議長挨拶・・・・・・・・・・・・	6
中学生議会議長、副議長指名・・・・・・・・・・	7
中学生議員の質問と市長の答弁	
【1】 A班 『教育』 について・・・・・・・・	8
【2】 B班 『まちづくり』 について・・・・	15
【3】 C班 『福祉』 について・・・・・・・・	22
【4】 D班 『シティプロモーション』 につい	30

閉 会

教育長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・	39
-----------------------	----

資 料

議席表・・・・・・・・・・・・・・・・	41
写真集・・・・・・・・・・・・・・・・	42

はじめに

門真市中学生議会とは

21世紀を担う子どもたちが、身近な市政や市議会についての仕組みや役割を学ぶとともに、自分たちの夢や希望を話し合った結果を模擬議会の場で質問する機会をとおして、市民としての意識の醸成を図ることを目的として開催する。

本年度は、市内6つの公立中学校の2年生と3年生の生徒、計21名が応募し、夏休み期間中、『教育』『まちづくり』『福祉』『シティプロモーション』の4つの中から選んだテーマについて、自分の考えや意見などを踏まえた作文を書きました。

その内容をもとに、2回の事前学習会において、市政や市議会について学び、さまざまな問題や課題について意見交換を行った上で、市政への提案や質問をまとめ、平成30年8月25日（土）に、市議会本会議場にて開催された『第9回 門真市中学生議会 本会議』で発表しました。

本誌は、その記録をまとめたものです。

門真市中学生議会の開催にあたり、保護者をはじめ、学校関係者、市議会のご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

平成30年9月
門真市
門真市教育委員会



門真市中学生議会議員名簿

	氏 名	学 校 名	学 年	性別
議 長	平塚 大幹	市立第七中学校	三年生	男
副 議 長	大森 捺稀	市立門真はすはな中学校	三年生	女

班・テーマ	氏 名	学 校 名	学 年	性別
A 班 『教 育』	岩崎 康希	市立第二中学校	二年生	男
	岡田 彩那	市立第三中学校	三年生	女
	葉山 英暉	市立第四中学校	三年生	男
	赤川 栞奈	市立第五中学校	三年生	女
	柏 希海	市立第七中学校	二年生	女
	大津 玖利生	市立門真はすはな中学校	三年生	男
B 班 『まちづくり』	角 野々香	市立第二中学校	二年生	女
	稲葉 佳那美	市立第三中学校	三年生	女
	西原 楓香	市立第四中学校	三年生	女
	江戸 恆雄	市立第五中学校	二年生	男
	橋本 洋子	市立門真はすはな中学校	三年生	女
C 班 『福 祉』	清原 一真	市立第三中学校	三年生	男
	桃原 汐音	市立第四中学校	三年生	女
	山川 詩温	市立第五中学校	三年生	女
	丸山 脩司	市立第七中学校	二年生	男
	西山 星玲菜	市立門真はすはな中学校	三年生	女
D 班 『シティブロモーション』	小谷 悠真	市立第二中学校	三年生	男
	神生 竜輝	市立第三中学校	三年生	男
	山下 愛紗	市立第五中学校	二年生	女
	平塚 大幹	市立第七中学校	三年生	男
	大森 捺稀	市立門真はすはな中学校	三年生	女

計 21 名

開 会

市長挨拶

門真市長の宮本一孝でございます。

『第9回 門真市中学生議会』の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

今回で、9回目を迎える中学生議会に、21名の中学生の方々にご参加いただき、厚く御礼申し上げます。

この場から中学生議員の皆様方を拝見しておりますと、大変凛々しく、強い熱意が伝わってくるのを感じております。

さて、皆様方が今いらっしゃる、この議場は、普段市民の皆様が、安全で安心して暮らせるように、市民の代表である市議会議員の方々話し合い、決め事を行う大切な場所でございます。

この議場で、門真市の未来を担う中学生議員の皆様方と議論できることは、大変光栄に存じますとともに、皆様方におかれましても、市議会運営を体験いただくことは、大変有意義であり、今後の人生において貴重な体験になるものと考えております。

皆様方は、これまで2回の学習会を通して、市役所と市議会の役割などについて学習され、その成果を質問にまとめられたと伺っております。

本日は、中学生議員として、私たちのまち門真を『誇りと愛着を持ち続けることができるまち』『住み続けたいと選んでもらえるまち』にするために、真剣に考えられたご提案・ご質問に対しまして、私たち一同、精一杯ご答弁させていただきますので、よろしくお願い致します。

また、本日、傍聴にお越しの保護者の皆様方におかれましては、公私何かとご多忙の折、また残暑厳しい中、中学生議会にご参加賜り、厚く御礼申し上げますとともに、平素より、市政の各般にわたり、温かいご理解とご協力を賜り重ねて御礼申し上げます。

結びに、本日の中学生議会の開会にあたり、多大なご尽力を賜りました皆様方に対しまして、心から感謝申し上げますとともに、忌憚のないご提案・ご質問が展開されることをご期待申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。本日は、何卒よろしくお願い致します。



市議会議長挨拶

門真市議会議長の佐藤親太でございます。

門真市議会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

『第9回 門真市中学生議会』には、市内の中学生、21名が中学生議員として参加され、また傍聴席には、保護者の皆様や校長先生、担当の先生方、ほか多数のご臨席をいただきまして、盛大に、かつ厳粛に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。



さて、中学生議員の皆様、今皆様がおられる議場という場所は、普段、私たち市議会議員が市民の方々の代表として、質問や意見を述べる場所ですが、今日は皆様が普段から関心のあることや疑問に感じていることなどを、リラックスして堂々と発表いただきたいと思います。

また、大変貴重な機会ですので、市議会の仕組みや市役所の役割についても、大いに学んでいただきたいと思います。

結びに、皆様が今後、益々元気で健やかに成長されますよう、お祈りいたしますとともに、ご臨席の皆様のご健勝、ご多幸を心より祈念いたしまして、開会に当たっての私からのご挨拶とさせていただきます。

中学生議会議長、副議長指名

司 会

『門真市中学生議会』の議長、副議長をご紹介いたします。

なお、議長、副議長につきましては、学習会の際に立候補いただき決定しております。

議長に、門真市立第七中学校 平塚 大幹 議員

副議長に、門真市立門真はすはな中学校 大森 捺稀 議員 をお願いいたします。



なお、本日の議事進行は、前半を平塚議長に、後半を大森副議長をお願いしたく存じます。それでは、よろしくお願い致します。

平塚 議長

只今から、『第9回 門真市中学生議会』を開会いたします。

私は、門真市中学生議会議長に選出されました、門真市立第七中学校の平塚大幹でございます。

中学生議会の円滑な議事進行に、皆様のご協力をお願い致します。

私たち、中学生議員21名は、今回、『教育』『まちづくり』『福祉』『シティプロモーション』の4つの分野について、班別に学習し、疑問に思うこと、提案したことなどをまとめまいりました。

『住み続けたいまち・門真』にするためには、どのようにすれば良いのか、一生懸命考えてまいりましたので、お聞きいただきますようお願い致します。



中学生議員の質問と市長の答弁

A班 『教育』について【質問】

- ・岩崎 康希 議員
- ・岡田 彩那 議員
- ・葉山 英暉 議員
- ・赤川 栞奈 議員
- ・柏 希海 議員
- ・大津 玖利生 議員

- 【1】子どもたちの教育環境づくりについて
- 【2】学校におけるいじめ防止対策について
- 【3】学力向上に向けた授業づくりについて

岡田 議員

私たちA班は、『教育』をテーマに話し合いました。

私たち、門真市の小・中学校に通う児童・生徒がしっかりと社会で活躍できる大人となれるよう、一生懸命勉強し、また、高い意欲を保ちながら、楽しく、有意義な学校生活を送るため、門真市では、どのような取組が行われているのか、また、どのようなことをしていくべきなのかということについて、意見を出し合いました。



これから、みんなで話し合った考えと、質問を行いたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

はじめに、『子どもたちの教育環境づくり』について、お伺いします。

私たちは、子どもたちが自分から勉強を頑張ろうと思える環境づくりをすればよいのではないかと考えました。また、それだけではなく、少し息抜きのできる場所をつくれればよいと思います。

柏 議員

現在、門真市の学力は、他に比べて低いと感じています。それには、この門真市の環境が関係しているのではないかと思いました。勉強できる環境と息抜きをできる環境の両方を考えたとき、新しくできた総合体育館を活用するとよいのではないかという意見が出ました。利用者が少ない会議室があれば、無料で開放し、そこを勉強スペースとして、息抜きに、1階の体育館で軽く運動ができればよいなと感じています。

そこで、質問します。教育の環境づくりとして、このような方法もよいことではないかと思うのですが、門真市としてのお考えをお聞かせください。

赤川 議員

次に、『学校における人間関係、特にいじめの問題』について、お聞きしたいと思います。

一日のうち、多くの時間を過ごすことになる学校が、楽しく安心して過ごせる場所であるためには、学級や部活動等での人間関係はとても重要です。もし、いじめられたりした場合、学校に行きたくなくなるのは当然だと思います。

私が、インターネット等で調べた情報では、全国におけるいじめを認知した学校数の割合は、中学校で一番多く、全体の75%を超えていました。

いじめが発見されたきっかけは、アンケート調査などの学校の取組が一番多く、次に、本人からの訴え、そして学級担任が発見、という順になっています。いじめと関連があるかどうかは、はっきりしないものの、不登校児童生徒数も増加している傾向がみられました。

岩崎 議員

これ以上、いじめを増やさないために、私たちは、二つの対策を考えました。

一つ目は、道徳の授業で、いじめについての授業をすることです。道徳の授業では、一人ひとりの価値観や思考について、違うことがあたりまえであるということについて学習することができ、他者に対する理解が深まると思います。また、いじめを受けている人との付き合い方やいじめの減らし方など、どうすれば

他人を尊重できるのかなどを学ぶことができると思います。

二つ目は、いじめの相談方法として、SNSを活用することです。いじめられている人は、一人で抱え込んでいるケースが多く、周りに話せない人がたくさんいるのではないかと思います。ですが、SNSなどに、相談の場があることで、気軽に話すことができ、少しでも悩みを減らすことができるのではないかと思います。

私たちとしては、以上の二つの対策を考えてみました。このことについて、門真市としてのお考えをお聞かせください。また、その他にも、いじめ防止のための対策について、取り組んでおられることがあれば、お教えてください。

葉山 議員

最後に、『小学校・中学校における授業』について質問します。

私たちは、学力をあげるために『わかる』を発見し、『楽しい』と思える授業にしていくことが大事だと考えています。

そのような授業にしていくために、一つ目としてICTの活用があげられると思います。

ICTの活用によって、板書する時間が減り、教材の準備時間も削減できます。それにより、授業効率、生産性が格段に上がることが期待されると思います。また、ICTを義務教育の早い段階から導入することで、児童・生徒自身がインターネット上から情報をどのように集め、どのように扱ったらよいかを正しく身につけるきっかけとなるなど、教育上のメリットを得られると思います。

しかし、デメリットも存在します。インターネットを用いた授業を行う場合、分からない問題につまずいても、すぐに検索によって解答が得られるので、自身で考え、問題を解決する能力を伸ばすことが難しくなると思います。また、デジタル機器の使い過ぎによる視力の低下も課題になると思います。

大津 議員

そこで、二つ目として、仲間同士で勉強を教え合ったり班やグループで協力したりして一つの問題を解く授業や少人数の授業を増やすことも必要であると思います。

班やグループで勉強することで、仲間同士で考えを深めたり、問題を解決したりすることができます。そうすることで、楽しく勉強できるとともに、自身で考え、問題を解決する能力も伸ばせると思います。

また、『仲間が勉強するなら、私も頑張ろう』と思えるし、仲間との絆も深まると思います。

そして、少人数の授業を増やすことで、先生が生徒一人ひとりに付き添う時間が増えて授業内容が、よりかわりやすくなり、勉強が『楽しい』と思える人が増えていくと思います。

そこで、質問します。

今、門真市が、こどもたちの学力を上げるために、どのような授業づくりを目指し、どのような取組を考えて、進めているのかをお教えてください。

以上が、A班の質問です。

平塚 議長

これより、理事者の答弁を求めます。

A班 『教育』について【答弁】

宮本 市長

A班の教育につきまして、私からお答えいたします。

まず、子どもたちの教育環境づくりについてであります。本市におきましては、子どもたちが放課後や休日などに自学・自習ができるよう、門真市民プラザ内にある生涯学習センター及び青少年活動センター、南部市民センター、並びに文化会館に学習室を設けており、市民交流会館には、学習できるスペースを設置しております。また、公民館においても、利用がない日は、会議室等を学習室として開放するなど、子どもたちの教育



環境の整備に努めております。

A班の皆さんからのご提案のように、学習の合間に体を動かすことは気分転換となり、学習効果の向上にもつながるものと考えます。

総合体育館におきましては、利用状況に余裕のある会議室等については、今後A班の皆さんにご提案いただいたような目的外の利用方法など、総合体育館を管理運営する指定管理者と施設の有効活用を協議してまいります。

また、現在もアリーナや多目的スタジオ等につきましては、前日までに利用予約が入っていない場合、有料にてスポーツ・レクリエーション活動に個人でご利用いただけますことから、ご活用いただきますようお願いいたします。

続いて、学校におけるいじめ防止対策についてであります。まず、いじめを防ぐための道徳の授業についてであります。新学習指導要領では、道徳が「特別の教科」として位置付けられておりますが、その背景にはいじめの問題が深くかかわっており、A班の皆さんのお考えのとおり、道徳科の授業を基盤とした道徳教育を充実していくことが、いじめ問題の解消や、いじめの未然防止につながると考えられております。

本市立小・中学校におきましても、新学習指導要領の趣旨に基づき、道徳科の様々な教材を活用しながら、児童・生徒がいじめ問題に向き合い、解消に向けて主体的に動くとともに、それぞれの違いを認め、多種多様な考え方を尊重できるように、道徳科の授業を中心に、道徳教育を充実させてまいります。そして、皆さん一人ひとりが、いじめや差別を許さず、毅然と立ち向かうことができる大人になれるよう、全ての教育活動において、皆さんの成長を支えていきたいと考えております。

次に、いじめの相談方法としてのSNSの活用についてであります。いじめられている人が、誰かに助けを求めたり、相談したりできる場はとても大切であるものの、身近にいる保護者の方や、学校の先生、友達などに相談したくともなかなかできない気持ちは、十分理解できるところです。

そのような場合、第三者であれば、気軽に自分の悩みを包み隠さず話せる可能性もあるので、大阪府教育庁においても、そのための相談窓口として、「すこやか教育相談」が開設されており、さらに今年度から府内の中学生と高校生を対象に、皆さんのご提案のようなSNSを活用した「LINE相談」も開設されました。「LINE相談」は、夏休みや冬休みなどの期間限定ではありますが、LINEを使っ

て、気軽に相談することができる窓口となっております。各学校を通じて紹介もしておりますので、ぜひ確認していただければと思います。

また、その他いじめ防止の取組についてであります。まず、大阪府の教職員に対し、いじめが起きにくい学校づくりの推進や、いじめが起きた際の対応方法などについて、様々な研修が行われており、本市の教員も多数参加しております。

また、いじめは重大な人権侵害であるとともに、「いじめ防止対策推進法」という法律に違反していることになり、被害者からの被害届によって警察等関係機関が対応する場合もあるため、学校の教職員と警察や教育委員会などが協力して組織的に対応できるよう、しっかりと連携しております。

皆さんにおかれましても、門真市の学校からいじめをなくしていくために、様々な立場の人たちが力を尽くしていることをぜひ知っていただき、それぞれの学校でも一人ひとりができることをこれからも行っていただきたいと思っております。

最後に、子どもたちの学力向上に向けた小・中学校の授業づくりや本市の取組についてであります。

勉強が「わかる」ことにより、「楽しい」と思うことができ、それが学力向上につながるというA班の皆さんの考えは非常に大切な視点であると考えます。そのために班やグループでの活動を増やすことやICT機器を活用していくことも有効であると考えております。

本市で平成24年度から取り組んでいる「学習のめあてをつかみ、一人で考え、全体で交流し、再び一人で考え、学びを振り返る」という流れを大切にした「門真市版授業スタンダード」では、こうした考えを取り入れ、教師主体の授業から子ども主体の授業への転換をめざした授業づくりを進めております。

さらに、本市では今年度新たに「門真市版授業づくりベーシック」の作成を予定しており、一つの単元の中で、子どもに何を教え、どんな力をつけるのかを見通して授業を構想していく、という授業づくりの基本方針を示し、その中で、新学習指導要領の授業づくりのポイントの一つである「主体的・対話的で深い学び」についての授業を具体的に考えられるように作成していく予定です。

学校における時間の大部分を占める授業をより良いものに作り上げていくことがさらなる学力の向上につながると考え、今後、教員研修等を通してその内容を徹底していきたいと考えております。

また、各学校では、ICT機器を積極的に活用した授業づくりも進められており、小学校では書画カメラやタブレットPCを使った授業づくり、また中学校ではデジタル教科書を使用した授業づくり等が進められています。今後、さらなるICT環境の整備に努めるとともに、子どもたちのICT機器の適切な活用についても合わせて指導してまいります。

A班の皆さんの、しっかりと社会で活躍できるような大人になりたいという気持ち、そしてそのために、一生懸命勉強し、様々なことに積極的に取り組みながら有意義な学校生活を送りたいという思いに触れ、それを支える教育の重要性を改めて強く感じております。今後もその思いを大切にして、いじめや差別に対し毅然と立ち向かうとともに、学校の授業やスポーツ、行事等の様々な場面で活躍していただきたいと考えております。

皆さん一人ひとりが、門真市を担う素晴らしい大人に成長されることをご期待申し上げ、私からのA班への答弁といたします。

平塚 議長

これで、A班の質問を終わります。

B班 『まちづくり』について【質問】

- 角 野々香 議員
- 稲葉 佳那美 議員
- 西原 楓香 議員
- 江戸 恆雄 議員
- 橋本 洋子 議員

- 【1】道路の拡幅について
- 【2】自転車の安全利用について
- 【3】避難放送について
- 【4】防災教室について
- 【5】河川や水路の環境対策について

西原 議員

私たちB班は、まちづくりをテーマに話し合いました。

私たちの住んでいる門真市が、安全で安心して暮らすことができるよう、門真市ではどのような取組が行われているのか、また、どのようなことをしていくべきなのかということについて、意見を出し合いました。



これから、みんなで話し合った
考えと、質問を行いたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、『道路の拡幅』について、おうかがいします。

一つ目は、門真市には、行き違いができないくらい狭い道路がたくさんあるにも関わらず、交通量が多いため、とても危険です。場所によっては、道路の端に緑色で区切られた場所があり、ある程度安全に通ることができますが、安全性を考えると、歩行者と車両が別々に通れる道路があればよいと思います。道路を広げること、簡単ではありませんが、少しずつでも道路を広げていくことはできるのかをお教えてください。

二つ目は、私の家の近所にあるT字路は交通量が多く、トラックもひんぱんに通る場所がありますが、信号機がないため、ドライバーの方も気づいていないことが多いので、危険です。

ドライバーの方が気付けるよう信号機の設置や文字表記をすることで、事故を未

然に防ぐことにもつながると思いますので、そのような対策をすることができるのかをお教えてください。

この二つの対策ができれば、小さい子どもから高齢者まで、道路を安全に通れることができるようになると思います。

稲葉 議員

次に、『自転車の安全運転』について、おうかがいします。

はじめに、門真市全体で起こった自転車に関わっている事故は、平成 29 年度のデータでは、148 件発生しており、死傷者数も多いです。

その事故の原因の約 7 割は、安全運転義務違反です。実際に、歩道を歩いていると、『危ない』と感じる自転車の運転をよく目にします。

ここまで、現在の自転車事故の状況について、お話をしましたが、安全運転義務違反となる原因は、自転車には、免許を取る過程がないため、交通ルールを知らないことが関係しているのではないかと思います。

私は、もっと交通ルールについて、学べる機会を増やしていくべきであると思いました。

そこで、現在、門真市では、自転車の交通ルールを市民の方々に知ってもらうために、どのような取組が行われているのかをお教えてください。

また、最近、自転車保険に加入することが義務化されていますが、保険に加入することで、どのようなメリットがあるのか、多くの方に加入してもらうためには、どのような対策を考えておられるかをお教えてください。

江戸 議員

次に、『災害時の対応と防災意識の向上』について、おうかがいします。

6 月 18 日に、大阪府の北部で大きな地震が発生しました。

登校中に地震が発生した場合に、どこに避難すればよいのか分からず、困っている人もいました。そのような迷いが、大きな被害に繋がるのではないかと思います。

一つ目は、そのような被害を少しでも、なくすために、門真市の防災無線を使っ

て放送し、どこへ避難するかを呼びかけることで、迷いがなくなると思います。また、地震だけでなく、豪雨や台風などのときでも呼びかけることの対策が必要であると感じました。

災害に対して、何ができるのかを考え、協力し合い、備えをして立ち向かわなければならないと思います。

角 議員

二つ目は、私たちは、まだまだ防災に関しての意識が低いということです。

小中高生は、今までに大きな規模の災害を経験したことがないため、災害に対する危機感が少ないように思います。大人でも、普段、避難訓練がないので、意識が低い方がいるように思います。

また、小学生の中には、地震で揺れていることを面白がる児童もいれば、怖くて泣き叫んでしまう児童もいます。そうならないために、地震について、知識を深め、『自分の命は、自分で守る』という意識を高める必要があります。

そこで、こどもから高齢者まで一緒に学べる防災教室を開催することを提案いたします。

普段、あまり考える機会が少ない防災について、みんなで学ぶことによって、防災意識が高まると思います。地震などの災害が起きて、避難が遅れて最悪な結果になってしまわないためにも、市民一人ひとりの防災意識を高める機会是非常に大切であると思います。

橋本 議員

次に、『河川や水路の環境対策』について、おうかがいします。

今、門真市の川が、どのような状態か知っておられますか。

門真に流れている川の大半に、ごみが投げ捨てられ、緑色や茶色に汚れ、異臭を放っています。

私は、なぜ川が汚れているのか、川をきれいにするためにはどうしたらよいかを調べました。

よく町で見かけるポスターやチラシに書いてある、ごみのポイ捨てが一番汚れる原因であることが分かりました。また、お風呂やトイレ、工場などの排水、道路に積もった排気ガスなども原因の1つです。

しかし、排水が原因であると分かっているにもかかわらず、きちんと水をきれいにしてから下水道に流さない家庭もたくさんあると思います。

私たちができることは、『ごみを川や道路に投げ捨てない』『きちんと油の処理をしてから下水道に流す』ということができます。

そこで、質問します。具体的な対策として、川の汚れの原因となる『チッソ』や『リン』などを吸収する植物を川の近くに植えることや川の中に砂利を敷くことで、水をろ過する効果を高めて浄水場の負担を軽減する方法が考えられますが、門真市として、川をきれいにするための対策は、どのように考えておられるのかをお聞かせください。

以上が、B班の質問です。

平塚 議員

これより、理事者の答弁を求めます。

B班 『まちづくり』について【答弁】

宮本 市長

B班のまちづくりににつきまして、私からお答えいたします。

まず、道路を広げることについてであります。本市では、昭和30年代から40年代の高度経済成長期に、まだ法律が整備されていなかったことから、無秩序に市街地が形成されたため、幅が狭い道路が多くなっています。このため、通学路などで交通安全対策が必要な箇所につきましては、10年ほど前から緑色のカラー舗装にするなど歩行者の安全性を確保する取り組み



を進めています。

B班の皆さんのご指摘の道路を広げることや、新たに歩道を整備することは、道路の安全対策として有効であると認識しており、順次進めておりますが、多くの時間と費用を要することから、道路を広げることと併せて、引き続き緑色のカラー舗装などの整備にも取り組んでまいります。

次に、信号機の設置や文字表記についてであります。
交差点の交通安全対策は、B班の皆さんのご指摘の信号機の設置や文字表記の他、カーブミラーの設置、舗装のカラー化などがあります。

危険な交差点への対策は、交差点の形状や交通量等の調査を行い、門真警察署と連携を図りながら効果的な安全対策を進めており、引き続き、対策を実施してまいりたいと考えております。

次に、自転車の安全利用についてであります。

まず、自転車の交通ルールについてであります。本市におきましては、自転車の安全利用に関する意識向上などを目的に、平成28年1月より、イヤホン等を使用しながら運転をしない事、携帯電話等の画像を注視しながら運転をしない事等を盛り込んだ、門真市自転車安全利用に関するマナー条例を施行し、大阪府においても同年4月より施行されております。

また、市民の方々に知って頂くために、春と秋に実施されている全国交通安全運動や、防犯キャンペーンなどを利用して、交通ルールの話やチラシの配布などによる、交通ルールを守る事の周知に努めております。
また、皆様が小学生の時に、子ども自転車運転免許証をもらった方がおられるかもしれませんが、その取組も続けております。

次に、自転車保険の加入メリットと多くの人に参加してもらうための対策についてであります。

まず、加入のメリットについてですが、自転車に乗っている方で誰も事故を起こそうとして、乗っている方はいないと思います。

しかしながら、事故の状況によっては、1億円を超える賠償費用が必要なケースもあるようです。事故を起こさない事が一番ですが、万が一、そのような状況になってしまった時のために、平成28年7月からは本市だけでなく、大阪府において、

保険加入を義務化しております。

また、加入をしてもらうための対策としては、先ほどご答弁申し上げた全国交通安全運動など様々な機会を捉えて、自転車保険加入に関する説明を行い、保険加入が義務であることを多くの市民の方々に知っていただく啓発を行い、未加入者が出ない取り組みを行っています。

皆様もまわりの方々に、加入は義務だからと促していただきますようお願いをいたします。

次に、避難放送についてであります。

本市では、平成23年度に、避難情報の伝達をはじめ、災害に関する情報伝達の手段としての防災行政無線を導入し、市内40箇所にスピーカーを設置いたしました。

スピーカーは、平成27年度に1箇所、平成28年度には9箇所の増設を行い、現在は、市内50箇所に設置を行っております。

B班の皆さんのご指摘の防災行政無線による避難放送についてではありますが、現在においても緊急放送等を行える体制としておりますものの、平成30年6月18日に発生した大阪北部地震を受け、さらに効率的に、災害時の緊急放送を市民の皆様確実に伝えるよう放送方法の検討等を行ってまいります。

次に、防災教室についてであります。

本市では、B班の皆さんのご指摘の「防災教室」につきまして、防災意識の向上を目的に、自治会などの自主防災組織において自主防災訓練等が行われており、訓練では、避難訓練のほか、地震に関わらず水害などの災害や防災などについて幅広く講話が開催され、市では講師として職員派遣を行っており、参加者につきましては、こどもから高齢者まで幅広く参加いただいております。

今後におきましても、災害が起きた時に避難が遅れたりしないよう、こどもから高齢者の方々の防災講話いわゆる防災教室を通じて、防災意識の向上に努めてまいります。

次に、河川や水路の環境対策についてであります。

本市の河川や水路は、昭和20年代までは様々な生き物が棲み、泳げるほどきれ

いであったと多くの方から聞き及んでおります。しかし、農村からまちへと変化した昭和 30 年代から 40 年代の高度経済成長期に、生活排水や工場排水が河川や水路に流れ込み、水質が悪化し、悪臭が発生しておりました。

現在は、下水道の整備や排水に関する指導・啓発を行っていることにより、少しずつではありますが水質が改善してきているところです。

今後、さらに水質を良くしていくにあたり、B班の皆さんのご提案の汚れの原因である窒素やリンを吸収させるための植物を植えることや、砂利を敷き詰める等の浄化方法については、他の市町村等の事例を参考に本市で実施できるか考えてまいります。

また、川等の水質を効率的に良くしていくには、汚れの原因の約 8 割といわれている生活排水を流入させないことが重要であります。そのため門真市では、市民の皆様が日頃から使用しているお風呂やトイレなどで汚れた水を下水道管を通して、大阪府が管理する下水処理場に集め、浄化処理してから寝屋川に放流する下水道の整備を昭和 42 年から進めてきております。

現在、本市での下水道整備は約 91%という状況であります。また整備ができていない地域につきましても、早期に下水道を使っていただけるよう努めてまいります。

しかし、いくら下水道の整備を進めましても、B班の皆さんを含め市民の皆様の協力なしでは水質を良くしていくことはできません。そこで、下水道の整備ができていない地域の市民の皆様は、必ず生活排水を下水道に接続していただくことや、川等にゴミなどをすてないこと、また、食事の残り物や油をそのまま排水口に流さないことなどを現在、広報やHPなどでお伝えしております。

今後につきましても、市民の皆様これらのことについてより一層のご理解を深めていただき、ご協力いただけるようお願いしていくとともに、憩いと安らぎを得られるような空間となるよう川の環境改善に努めてまいりますので、よろしくご理解いただきますよう、お願い申し上げます。私からのB班への答弁とさせていただきます。

平塚 議長

これで、B班の質問を終わります。

大森 副議長

私は、門真市立門真はすはな中学校の大森 捺稀でございます。

議長に代わりまして、議事進行してまいりますので、円滑な議事進行にご協力をお願い致します。



C班 『福祉』について【質問】

- ・清原 一真 議員
- ・桃原 汐音 議員
- ・山川 詩温 議員
- ・丸山 脩司 議員
- ・西山 星玲菜 議員

- 【1】障がいのある人に対して関心と理解を持つことについて
- 【2】高齢者との関わりについて
- 【3】障がいのある人や体の不自由な人のための放置自転車対策について
- 【4】放置自転車を減らすためのコミュニティサイクルの活用について
- 【5】災害時における高齢者等の安否確認について
- 【6】健康について

清原 議員

私たちC班は、福祉をテーマに話し合いました。

これから、みんなで話し合った考えと、質問を行いたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私たちは、門真をもっと安全で暮らしやすい町にしていかなければならないと思います。



なぜなら、普段、地元で暮らしていて、『自転車の盗難が多い』『変質者がうろろしている』『ボール遊びが禁止されている公園も多く、安心して遊べる場所が少ない』『ごみが散らかっている』『安心して歩ける歩道や道路が少ない』などといったことを感じることもあるからです。

また、障がいのある人の数が、約 7,850 人、高齢者の数が、約 35,000 人いると聞き、私たち以上に安全で暮らせる町が必要になる人が多いと感じました。

このような中、安全で暮らせる町にするためには、みんながもっといろいろなことに関心を持つということが必要であると思います。無関心の人が多いから、起こってはならないことが起きたり、安全で暮らしやすい町だと感じないのではないかと思います。周りのことに関心が持てるようになれば、助け合いもできるし、いろいろな人が安心できるようになると思います。

私は、門真市の『福祉』のことについて考えました。その中で、門真市をもっと暮らしやすい町にしなければならないと思いました。そのためには、門真市に住んでいる人が、門真市について少しでも関心を持つことが重要であると思いました。関心を持つためには、地域の人たちが、もっと障がいのある人に対して関心を持つことです。

そこで、私の意見としては、障がいのある人が中心としたイベントをすることです。障がいのある人が表に出る機会は少ないので、出る機会にもなるし、何よりイベントに参加することで障がいのある人に少しでも関心を持つことで、地域の人たちがお互いに暮らしやすい町になればよいと思います。

桃原 議員

次に、『高齢者との関わりを増やすこと』について、提案します。

私が考える改善点は二点あります。

一つ目は、高齢者と関わる場所をつくるということです。門真には、小中学生と高齢者の関わる機会があまりないと思います。そのため、高齢者が体験談などの話をするすることで、小中学生が興味を持ち、これからの門真について、考えることができる環境にも繋がると思います。

二つ目は、中学校で『あいさつ運動』を行っているのと同様に、地域で何かイベントなどを行うことで関わりを増やし、地域の活性化にも繋がっていくということです。あいさつなどのコミュニケーションが取れば、もっと関わりが増えると思

うし、お互い気持ちも良いものだと思います。

このように、高齢者との関わりを増やすことで、地域の活性化に繋がると思うため、高齢者と関わるができる場をつくってほしいと思います。

山川 議員

次に、『障がいのある人や体の不自由な人が住みやすい町』について、おうかがいします。

それは、障がいのある人や体が不自由な人にとって、この門真市が住みやすいかどうかです。車イスの方にとっては、少しの段差や狭い道でもすごく不安になります。

門真市の駅前などで、歩道をさえぎったり、邪魔になったりして、歩く人たちに、迷惑な放置自転車を見つけるときがあります。放置自転車があると、体に不自由のない人でも通りにくいときがあります。

そのような道は、体の不自由な人にとっては、本当に通ることが大変なことだと思います。これは、自転車を置く人が歩く人のことを考えていない無関心さからくることであると思います。

そこで、質問と提案をします。

一つ目は、今、門真市内の駅前にみられる放置自転車の数はどれくらいあり、どのように対処をしているのかをお教えてください。

二つ目は、放置自転車をなくすために、他の都道府県で実施している『コミュニティサイクル』を門真市にも取り入れることを提案します。

『コミュニティサイクル』は、街中に自転車貸し出し拠点を設置し、どこの貸し出し拠点でも、自転車を借りたり、返したりできるというものです。

このシステムをたくさんの方が活用すれば、街中の路上に自転車が置かれることが少なくなり、通りにくい道が減って、障がいのある人や体が不自由な人でも通りやすい町が実現すると思います。

門真市においても、この『コミュニティサイクル』の検討をよろしく願います。

丸山 議員

次に、『災害時の高齢者等の安否確認』について、おうかがいします。

6月18日に発生した大阪北部地震や7月の豪雨などの自然災害が、最近目立っています。各地域でも混乱状態に陥ったのは確かだと思います。

また、災害で尊い命が奪われ、とても不安に感じられた方も多かったことだと思います。

私は、また必ずやってくる災害に立ち向かうには、関心を持つことが非常に重要であると考えます。無関心なことが一番怖いと思います。少しでも自然災害に関心を持ち、高齢者にも気配りできるようになれば、安心できると思います。

そこで、より多くの方が安心できるように、提案します。

それは、近所ごとにグループをつくり、そのグループ内では、いつでも連絡を取り合える状況を作るというものです。そして、各グループの情報を市が収集し、安否確認や安全確保に役立てていければよいと思います。

すぐに行うことは難しいかも知れませんが、少しずつでも行っていければ、一人の命を救うことができるかもしれないと思います。

自然災害の際に、一人でも多くの方が助かるよう、高齢者など弱者と言われる人たちの安否確認をできるだけ早く行えるよう、門真市が取り組んでいること、また、取り組もうとしていることをお教えてください。

西山 議員

次に、『健康』について、提案します。

毎日、生き生きと暮らすには、健康でいる必要があると思います。

私は、大切な人をがんで失いました。若い人が検診を受けることができる体制が整っていれば、早期発見・早期治療につながり、治る可能性が高くなると思います。

そのようなことから、門真市では、もう少し幅広い年齢の人が検診を受けられるようにしてほしいです。また、若いうちは、健康が当たり前というイメージもあり、『自分には関係ない』『自分は大丈夫』などといった健康に対して無関心な方も多いのではないのでしょうか。少しでも一人ひとりが健康に関心を持てるように伝えていく取組の検討をよろしくお願いします。

以上が、C班の質問です。

大森 副議長

これより、理事者の答弁を求めます。

C班 『福祉』について【答弁】

宮本 市長

C班の福祉につきまして、私からお答えいたします。

まず、障がいのある人に対して関心と理解を持つことについてであります。

本市で実施している障がいのある人に対して関心と理解を持っていただくための取り組みとしましては、毎年12月の障がい者週間に合わせて、京阪電鉄古川橋駅を中心とする街頭啓発キャンペーン及び市役所においては障がいのある人等による演奏会を実施しております。



また、毎年門真市保健福祉センターにおいて、高齢者や障がいのある人等が作成した、絵画等さまざまな作品を展示する「きらめきアートフェスタ」を開催しております。さらに、同センター1階のふれあいコーナーを障がいのある人の活動の場として通年で提供し、就労支援施設で製作した自主製品の販売やイベントを開催するなど、障がいのある人が主体的に取り組んでおられます。

私たちの門真をもっと住みよいまちにするため、地域の人たちに障がいのある人への関心と理解を深めていただくことは、大変重要なことですので、引き続き取り組みを進めてまいります。

次に、高齢者との関わりについてであります。

高齢者と関われる場所をつくること、そして、地域でイベントを行い、地域を活発にしていくことについてであります。

門真市第3期地域福祉計画策定のために実施した市民アンケート調査においては、

「住民相互の支え合い、助け合いの必要性」について、「とても必要だと思う」又は「ある程度必要だと思う」と回答した割合が89.2%となっています。

地域にはさまざまな人が暮らしており、お互いの立場や価値観を理解し合い、支え合いながら共に地域で暮らしていくという住民相互の助け合いの意識を、身近な地域の中で子どものころから育むことは、地域を担う人材を増やし、支え合いの地域づくりにつながる地域福祉全体の基盤となるものと認識しています。

本市においては、2年前の中学生議会などで提案された、すべての世代の市民が集うふるさと門真まつりを29年度から復活させ、今年度は、約49,000人の市民が参加しました。また、老人福祉センター等を活用した高齢者と幼児やその親との世代間交流など、異年齢の交流の機会を設けております。

引き続き、高齢者と小中学生が関われる場所の提供、イベント等のさまざまな世代が参加できる機会の創出、日常的なコミュニケーションが積極的に行える環境づくりなど、より一層地域の活性化に有効な事業を実施できるよう検討してまいります。

次に、障がいのある人や体の不自由な人のための放置自転車対策についてであります。

まず、駅前にみられる放置自転車の数についてありますが、市内各駅周辺に指定している自転車等放置禁止区域内での撤去台数は、平成26年度には約7,200台でしたが、市内3駅の駅前にサイクルラックの整備を行ったことなどから平成27年度は約5,100台、28年度は約3,900台、29年度は約3,500台と近年減少傾向にあります。

また、放置自転車の対処については、自転車等放置禁止区域内において、週5日の各4時間、9人体制で駐輪場の利用を促す街頭指導や放置自転車等への警告札の貼付けを行うとともに、撤去作業を行っています。

次に、C班の皆さんのご提案のコミュニティサイクルの導入につきましては、市民の皆さんが利用しやすい自転車置き場の位置や必要台数などの検討が必要であることから、他市の事例を参考に本市での実施による効果が見込めるのか調査研究してまいります。

C班の皆さんが質問の中で触れられたように、体の不自由な方々も安心して通行していただけるよう、今後も放置自転車対策に取り組んでまいります。

次に、災害時における高齢者等の安否確認についてであります。

6月に大阪北部地震、7月には豪雨があり、自然災害の恐ろしさについて、大変身近に感じさせられたところだと思えます。

本市では、自力で避難が困難な高齢者や障がいのある人の名簿を作成し、災害時の安否確認に利用できる体制を整えるとともに、防災意識の向上を図るため、自治会などの自主防災組織に対する防災講話や防災用品、備蓄物資などの紹介、広報かどまやホームページにおける啓発などを実施しています。

また、迅速に安否確認を行うためには、普段からの声掛けなど近所付き合いや見守り体制が整っていることが重要となります。

現在、民生委員・児童委員や校区福祉委員、自治会などのさまざまな福祉に関する担い手や団体などが地域の見守りや声掛け活動を展開されています。さらに、「高齢者の見守りに関する協定」を市内において、本年4月以降には新たに電気・ガスの検針、宅配便、新聞等配達を行っている民間事業者等と締結し、見守りの強化を図っているところです。

災害は、いつ発生するかわかりません。起きた時には、安否確認や避難が迅速にできるよう、今後も引き続き防災意識の向上や見守り体制の強化を進めます。

幅広い年齢の人が検診を受けられることについてであります。

本市のがん検診は、40歳以上の市民に対する胃がん・大腸がん・肺がん検診、40歳以上の女性市民に対する乳がん検診、20歳以上の女性市民に対する子宮がん検診を実施しております。

これらは、国が示す「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に基づき、対象年齢も定められたものとなっております。

また、思春期から若い成人世代につきましては、本年5月に国立がん研究センターから、年齢層別に発症しやすいがんの実態が公表されたところであり、今後のがん対策の充実に向け、調査研究してまいります。

次に、健康に対する関心を持てるように伝えていく取り組みについてであります。

健康づくりのためには、規則正しい生活リズムやバランスの良い食生活、禁煙など日頃の生活習慣が非常に重要なものとなります。

また、病気に対する正しい知識や検診の必要性、加えて症状のある時に、医療

機関を受診することの大切さなどを市民にわかりやすく伝えることは、病気の予防や早期発見、早期治療に効果的であると認識しております。本市としまして、各種保健事業やイベント等において、健康に関する周知啓発を行い、市民の健康に対する意識の向上をめざしてまいりますので、よろしくご理解いただきますよう、お願い申し上げます、私からのC班への答弁とさせていただきます。

大森 副議長

これで、C班の質問を終わります。

D班 『シティプロモーション』について【質問】

- ・小谷 悠真 議員
- ・神生 竜輝 議員
- ・山下 愛紗 議員
- ・平塚 大幹 議員
- ・大森 捺稀 議員

- 【1】 SNSの活用について
- 【2】 門真れんこん、くわいのPRについて
- 【3】 これまでの幣原喜重郎のPR方法やSNSを活用した今後のPRについて
- 【4】 あいさつ運動について
- 【5】 市民同士がつながりを深められる取組について

山下 議員

私たちD班は、シティプロモーションをテーマに話し合いました。

私たちは、門真市の魅力をたくさんの人に知ってもらうために、どのような取組が行われているのか、また、どんなことをしていくべきなのかということについて、意見を出し合いました。

これから、みんなで話し合った考えと、質問を行いたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。



はじめに、『SNSの活用』について、おうかがいします。

私が思うシティプロモーションは、『門真レンコン』だと思います。その理由は、門真を代表する食べ物であり、美味しいからです。この『門真レンコン』をたくさんの人に知ってもらい、食べてもらいたいと思います。

また、学校で給食を作っている学校は、全国区的にも珍しいです。これを広めると門真の人口も人気も増えると思います。

これらを広めるためには、SNSを活用すると良いと思います。

そこで、現在、門真市は、『ツイッター』を活用していますが、『フェイスブック』『インスタグラム』や『LINE』の公式アカウントの活用は検討されているか、また、今行っているSNSの運用状況と今後の方向性をお教えてください。

小谷 議員

次に、門真市の良いところは、希少価値があり、丁寧に育てられた美味しい『レンコン』や『クワイ』などがあることです。

門真市に住んでいる人に知ってもらうために、地域のイベントや祭りで『レンコン』や『クワイ』などを料理し、すぐに食べてもらえるようにして、たくさんの訪れた人に、食べてもらえるようにしたいです。

次に、市外に住んでいる人に知ってもらうためにSNSを使い、『レンコン』や『クワイ』を使った料理などを広めていけたら良いと思います。

たくさん食べてもらうには、たくさんの『レンコン』や『クワイ』が必要になりますが、現在、どれくらいの『レンコン』『クワイ』が年間で作られていますか、また、『レンコン』『クワイ』の生産量を増やす取り組みについて教えてください。

平塚 議員

次に、突然ですが皆さんは、この門真市一番町に生まれ、日本の外務大臣、第44代内閣総理大臣などを歴任した人物を知っていますか。知らない人がほとんどではないかと思えます。

その人は、幣原喜重郎です。外交官として英米勤務が長く、英語が非常に堪能でした。外務省に入省した直後は、イギリスの新聞『タイムズ』を和訳し、その和訳文を再び英訳することを何度も何度も繰り返し学習したそうです。

そこで、幣原さんを知ってもらうために、どのような取組、宣伝を行ってきたかをお聞かせください。

次に、本市の魅力をいかに進めるかについて、おうかがいします。

私は、門真市を知ってもらうには、門真市民全員が幣原さんを知ることが必要不可欠と考えています。自分が住んでいる市は、『あの幣原さんの出身地なんだぞ』と友人や知人に自慢したり、SNSやホームページで教えることができると思うからです。

そこで、これからどういう方向で魅力を発信していきたいと考えているかをお聞かせください。

大森 議員

最後に、『あいさつ運動と市民同士が繋がりを深められる取組』についておうかがいします。

門真市の良いところは、地域の方や近所に住む人たちが、みんな優しいところです。

私たちが朝、クラブの練習があるとき、いつも笑顔で「おはようございます。今日も早いね。頑張ってるね。」と声をかけてくださる方や、学校帰りには、「おかえり。今日は暑かったね。」と笑顔で話しかけてくれる人がいます。

朝、誰かに「おはよう」と言ったり、言われたりすると、その日一日、頑張ろう、帰りに「おかえり」と言われたりすると、その日一日、頑張ってる良かったと、私たちはいつも思います。

これからも、『あいさつ』を大切にしていき、一人ひとりが、この門真市に住んでいて良かったと思えるように、門真市全体で、『あいさつ運動』をしていけたら良いと思っています。

そこで、質問します。一つ目は、今、学校などで、どのような『あいさつ運動』が行われているのかお教えてください。

二つ目は、門真市に住んでいる人たちが、もっと明るく、楽しく過ごせるよう、門真市全体で取り組むことができれば良いと思っています。今後、市民のみなさんが、それぞれの繋がりを深められるような取組が必要だと思いましたが、市としてどのようなお考えかお教えてください。

もし、それらに、私たちが力になれることがあれば、協力したいと考えております。

以上が、D班の質問です。

大森 副議長

これより、理事者の答弁を求めます。

D班 『シティプロモーション』について【答弁】

宮本 市長

D班のシティプロモーションにつきまして、私からお答えします。

まず、SNSの活用についてであります。

SNSの運用状況につきましては、平成26年度からツイッターを開始しており、市ホームページに新しく掲載した情報などを平日に1日3件程度ツイートしている他、地震や台風などの災害が起こったときには、注意の呼びかけや避難所のお知らせなど緊急情報の発信にも活用しています。また、現在のフォロワー数は約950人で、平均すると1日あたり約2,500回見られています。



そのほか、門真はすはな中学校の生徒がデザインの一部を考えたガラスケのラインスタンプを昨年から販売し、市への愛着を育てております。

今後の方向性につきましては、SNSが本市の魅力を発信する上で重要なツールであることは十分に認識していることから、現在、フェイスブックやインスタグラム、LINEなどを活用している自治体やSNSに詳しい事業者からの情報収集に加え、本市の魅力などを効果的に情報発信できるようSNSの活用研修にも参加しており、さらなるシティプロモーションへの活用方策について、前向きに検討してまいります。

SNSには、誰もが参加でき多くの人と繋がることのできるおもしろさがある一方で、不適切な発言による批判を受ける『炎上』といったリスクなど、様々な危険性も潜んでいます。日頃から学校でも十分に注意喚起されているとは思いますが、皆さんも十分に気を付けてSNSを活用してください。

次に、門真れんこん・くわいのPRについてであります。

まず、門真で採れたレンコン、クワイにつきましては、11月の門真市農業まつりにて試食、販売されており大変な人気となっております。また、冬場には天ぷらやきんぴらなどに調理した地場産レンコンが市内小中学校の給食で提供されております。

す。この他、生産者の名前を表示したレンコンやレンコンが入った麺やお菓子などが市内で販売されており、様々な場面で食べていただいております。

次に、レンコンやクワイの料理などのPRにつきましては、現在、市ホームページでレンコンを使ったお菓子作りの取組を掲載しているところではございますが、今後も機会を捉えながらSNSの活用も研究して効果的な情報発信を検討してまいります。

次に、現在、どれくらいのレンコン・クワイが年間で作られているかについてです。生産量は系統だった統計データがないことから、把握していない状況ではありますが、市内で生産している農家の人数は59名で、作付面積は約5.1ヘクタールです。

次に、生産量を増やす取組についてですが、北河内農業協同組合門真地区の営農研究会が特産物の品質改善及び生産増強の推進、後継者の育成指導を目的に、下島町及び北島地域の試験田でレンコン・クワイの栽培を行っており、市はその事業を支援しているところです。また、そこで掘り取りされた約700本のレンコンは、門真市農業まつりにて販売されております。

今後におきましても、本市の地域伝統野菜として、粘土質土壌の、ほ場で丁寧に栽培されたレンコンやクワイが多く収穫され、多くの人に食べていただけるよう、農家の方々と協力しながら、PRや営農環境の保全等について取組を進めてまいります。

次に、これまでの幣原喜重郎のPR方法やSNS等を活用した今後のPRについてであります。

幣原喜重郎氏を知ってもらうためにどのような取組を行ってきたかについてですが、歴史資料館におきまして、幣原喜重郎氏のことを取り上げた常設展『幣原家の足跡を訪ねて』を実施しております。

また、本市広報紙及びホームページをはじめ、『門真市文化財ガイドブック』や、小学校社会科の副読本『わたしたちの町かどま』のほか、歴史資料館発行の『歴史散策カドマップ』におきまして、幣原兄弟顕彰碑とともに氏の業績などを紹介しております。

さらに、小学3年生を対象とする歴史資料館への見学时や、歴史資料館主催の市民学芸員養成講座におきましても、氏の業績を解説するなど周知に努めているところ

ろです。

本市の魅力をどのように発信していくかについてですが、幣原喜重郎氏や本市ゆかりの人物、縄文時代から続く歴史、国の天然記念物に指定されている薫蓋クスなどは、本市の歴史的な魅力であります。

D班の皆さんからのご提案の本市ホームページやSNSによる情報発信をはじめ、門真の歴史と文化について学ばれた市民学芸員による史跡案内などにより、人と人が触れ合いながら、現地で学習する機会を設けることで、具体的かつ効果的に本市の魅力を発信できるものと考えております。

今後におきましても、幣原喜重郎氏をはじめとする本市ゆかりの人物や本市の魅力を市内外に広く周知してまいります。

次に、あいさつ運動と市民同士が繋がりを深められる取り組みについてであります。

「あいさつ運動」についてですが、児童会や生徒会を中心として実施されている学校もあると聞いております。

その他、保護者や校長先生等が、通学路や校門等において、児童や生徒に対し朝の挨拶を行っておられたり、また、ボランティアで児童の通学路を見守られている、キッズサポーターをはじめとする地域の方々においても、積極的にご挨拶されたりしております。

一般的に社会情勢や家庭環境の変化に伴い、人との繋がりが昔と比べて薄くなってきているなか、挨拶を交わすことは重要なことだと思っています。

幼少の頃から挨拶する環境は大切であり、皆さんもぜひ積極的に挨拶を行っていただきたいと思っております。

D班の皆さんのご指摘のとおり、挨拶を通して人とのコミュニケーションを深めることは大切であり、地域の繋がりをより強めていくためにも、地域における「あいさつ運動」は重要であると考えております。

門真市の魅力・強みの一つに、人の活気、力強さ、向こう三軒両隣と言われた古き良き人情味があり、長い年月をかけて地域の中で育まれてきたこれらの強みを、皆さんの世代にも引き継いでいきたいと考えております。そのような中、市民の皆様の繋がりを深め、子どもから大人まで一緒になって楽しむことができるイベントとして、昨年7月には市内全体から多様な団体が参画された実行委員会を中心となり、10年ぶりに「ふるさと門真まつり」が復活しました。今年も7月に第2回目が開催され、市内のすみずみから昨年以上に多くの市民がお越しになり、改めて地域の絆の深さを実感したところであります。

市としましては、D班の皆さんのご質問の門真市に住んでいる人たちがもっと明

るく、楽しく過ごせるような取り組みとして、「ふるさと門真まつり」を来年度以降もさらに盛り上げていきたいと考えております。

昨今、門真市内で実施されるイベントの担い手や参加者も高齢化が進み、地域の皆さんは中学生の皆さんや若者の参加を強く望んでおられます。若者の活気やアイデアで、門真市をより明るく楽しいまちにしていけると思います。お住まいの校区の地域活動にも積極的に参加いただくことで、地域のみんなが自然と挨拶しあえる町となり、地域の絆がより一層深まるようご協力いただくことをご期待しております。

以上が、今回中学生議員の皆様からいただいた、ご質問に対しお答えさせていただいた答弁の全てでございますが、A班では、『教育環境』や『いじめの問題』、『授業づくり』など、B班では、『道路』『河川』の問題、自転車における交通マナー向上に対する取組、また、防災意識の向上についてなど、C班では、『高齢者との関わり』や『災害時の安否確認』、『障がいのある人への関心を高め互いが暮らしやすいまちづくり』や『若年からの検診の提案』など、D班では、『SNSの活用』、『門真れんこんのPR』や『郷土の偉人である幣原喜重郎を含めた本市の魅力発信』、『あいさつ運動』や『市が考える市民のつながりが深まる取組について』など、お一人お一人がテーマに沿って、質問やご提案の作成に高い意欲を持って取り組んでいただいた内容であり非常に頼もしい限りであると実感いたしました。

これから、この門真市を担っていただく、中学生の皆様におかれましては、本日の経験を大いに活かしていただき、市民の模範となってお活躍いただきますことをご期待いたします。

以上で、私からの答弁とさせていただきます。

本日は、本当にお疲れ様でした。

大森 副議長

これで、D班の質問を終わります。
以上で質問は、すべて終了いたしました。
みなさんのご協力に感謝いたします。

大森 副議長

本日、この本会議場で、中学生議員として、宮本市長にご答弁いただくという貴重な体験をしました。

この経験を活かし、これからも門真市を『住み続けたいまち・門真』にするには、どうすれば良いのか、引き続き考えていきたいと思います。



これをもちまして、『第9回 門真市中学生議会』を閉会いたします。

閉 会

教育長挨拶

門真市教育長の久木元修平でございます。

『第9回 門真市中学生議会』の閉会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

市内各中学校から21名の生徒の皆様にご参加いただき、無事に『第9回 門真市中学生議会』を開催できましたことに、厚く御礼申し上げます。

また、保護者の皆様をはじめ、多数の関係者の皆様に、ご参列いただき、厳粛なる議場の中で、盛大に開催できましたことに、心より感謝申し上げます。

今日、中学生議員の皆様から、『教育』『まちづくり』『福祉』『シティプロモーション』と、幅広いテーマに沿って貴重なご提言をいくつもいただきました。いずれも、本市の現状をしっかりと見据え、議員同士で真剣に議論されたものであり、その提言は我々としても大変参考になったものと考えています。皆様の門真市をよくしたいという熱い思いを感じ、改めて心強く思った次第です。

これからもこの経験を活かし、門真市のみならず広く社会や世界に関心を持ち幅広い視点で物事を考え提言し、主体的に行動できる人となってほしいと願っております。

結びに、閉会にあたりまして、本日、傍聴にお越しいただきました保護者の皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後とも本市の子どもたちが、心豊で逞しく育つことができるよう、ご理解とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

以上をもちまして、甚だ簡単ではございますが私からの閉会のご挨拶といたします。

本日は、誠にありがとうございました。



資 料

議席表

神生 竜輝	山下 愛紗	平塚 大幹	大森 捺稀	山川 詩温	丸山 脩司	西山 星玲菜	
赤川 菜奈	柏 希海	大津 玖利生	小谷 悠真	清原 一真	桃原 汐音	江戸 恆雄	橋本 洋子
岩崎 康希	岡田 彩那	葉山 英暉		角 野々香	稲葉 佳那美	西原 楓香	
	市議会副議長 武田 朋久	市議会議長 佐藤 親太		市長 宮本 一孝	副市長 下治 正和	副市長 日野出 俊夫	
教育部長 満永 誠一	教育次長 森本 訓史	教育長 久木元 秀平	中学生議会 議長席	企画財政部次 長兼秘書課長 宮口 康弘	企画財政部長 河合 敏和	総務部長 大兼 伸央	
	上下水道局長 西口 孝	まちづくり部長 木村 佳英		市民生活部長 重光 千代美	保健福祉部長 市原 昌亮	こども部長 内田 勇	
	行政委員会 総合事務局長 南野 晃久	会計管理者 溝口 朋永					

第 9 回 門 真 市 中 学 生 議 会



岩崎 康希 丸山 脩司 清原 一真 葉山 英暉 江戸 恆雄 大津 玖利生 稲葉 佳那美 西原 楓香
山川 詩温 西山 星玲菜 岡田 彩那 桃原 汐音 赤川 葉奈 柏 希海 橋本 洋子 角 野夕香 小谷 悠真 山下 愛紗
日野出副市長 下治副市長 宮本市長 平塚 大幹 大森 捺稀 佐藤市議会議長 武田市議会副議長 久木元教育長

学 習 会





班別集合写真









本 会 議













